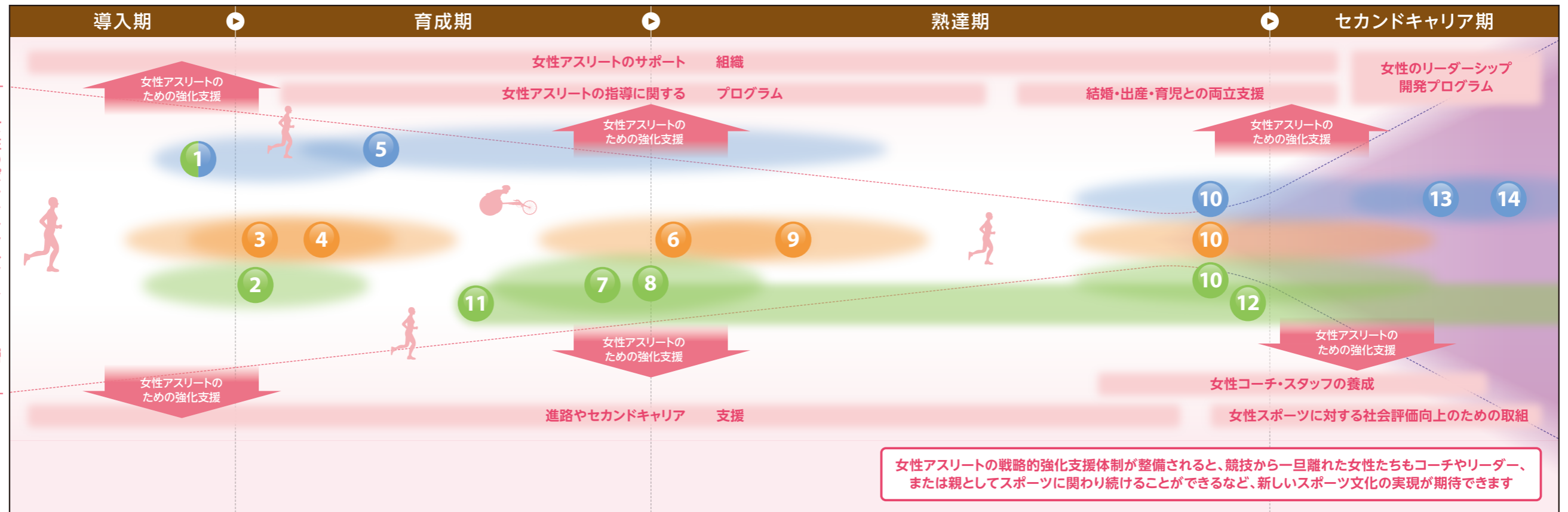


パネルディスカッション「スポーツを通じた女性の活躍」

女性のポテンシャルアスリート層とは「国際舞台で活躍する潜在能力を秘めた女性アスリート」を意味します。右の図では、導入期においては多くの女子がその対象となっているものの、育成期にかけてその人数は減少し、熟達期にはかなり厳選されていく様子をピンク色の点線で示しています。この女性のポテンシャルアスリート層の持つ可能性を最大限に引き出すためには、それぞれの競技発達段階において生じる課題に対し、戦略的に強化支援を行うことが重要です。またセカンドキャリア以降では、引退したアスリートたちがスムーズにキャリアトランジションし、その人数が増加していく可能性を紫色の点線で示しています。

女性のポテンシャルアスリート層



課題の把握(現場の声)	身体・生理	<p>3 月経への理解 月経中にどのような指導をしていいかわからない(コーチ・強化スタッフ) / 月経に伴う症状を理解できずに追い込んでしまう(コーチ・強化スタッフ)</p> <p>4 女性の身体的特徴を考慮したトレーニング・コンディショニングの必要性 日頃の激しいトレーニングにより、無月経を引き起こすことがある(JISS関係者)</p> <p>6 女性アスリートの身体に対する教育 ジュニア時代は知識がないのでダイエットクッキーなどで減量していた(元アスリート・オリンピック選手)</p> <p>9 女性アスリートの身体への理解 アスリートの身体特性や、練習環境などを良く理解している婦人科問題に熟知したドクターが必要(元アスリート・オリンピック選手)</p>
	心理・社会	<p>1 スポーツへの参加機会 スポーツに参加できる機会が少ない</p> <p>2 親・保護者の理解 保護者がその競技は危険だと判断して、やらせがらない(コーチ) / 両親が12、13歳の娘の意思を尊重し、金銭的サポートをしてくれた(元アスリート)</p> <p>5 競技機会の不足 中学校で自分の取り組んでいる競技の部活がなく、活動の場を失うことが多い(コーチ)</p> <p>7 周囲の理解 幼い頃に医者や弁護士になりたいという夢があっても、スポーツで頭角を現してきたときに、日本ではどちらかに集中させるところがある(強化部長経験者)</p> <p>8 指導者との適切な関係性 大会前に指導者からマッサージしてやるといわれ、本当は嫌だったが断れなかった(元アスリート)</p>
	組織・環境	<p>11 デュアルキャリアへの支援 高校・大学を卒業した後、競技を続けていける環境がなく、サポートしてくれる企業や組織もない(コーチ)</p> <p>10 ライフスタイルにあった支援 現役時代、月経が止まったことで、子どもが産めないのではないかと不安もあった(元アスリート) 結婚して子どもができると、競技がそこで終わってしまう(コーチ) 子どもを育てながら指導する女性コーチのために、トレーニングをする場所に託児所を完備するなど、子どもがいても安心してコーチングできる環境があると良い(強化部長経験者)</p> <p>12 引退後のセカンドキャリアへの支援 競技を引退した後に、社会で実際に仕事ができるのか不安(元コーチ) / 女性アスリート自身が引退後にどう生きていくかを考えていない(強化部長経験者)</p>
		<p>13 指導的地位に就く女性の不足 将来リーダーとなる人材を育てていかなければならない(強化部長経験者)</p> <p>14 女性アスリートの社会的評価 女性アスリートやコーチの容姿を中心として取り上げられることが多く、競技パフォーマンスや指導力とは関係ないところが先行してしまう(元アスリート)</p>

これらの課題に対して、 **身体・生理的な課題**に対する方策→9ページ **心理・社会的な課題**に対する方策→11ページ **組織・環境的な課題**に対する方策→13ページ